

# 校区学校運営協議会

## 白鳥中学校区合同学校運営協議会【12月13日(金)開催】(報告)

12月13日(金)、加佐登小学校にて、白鳥中学校区合同学校運営協議会を開催しました。

この会は、各校での取組を情報共有するとともに、中学校区の各運営協議会が連携し、学校と地域が小、中学校9年間を見通した子どもの育成について熟議することを目的に実施しています。

当日、各校の実践発表を行った後、各校の取組についての質疑応答と意見交換を行いました。

各校とも地域のまちづくり協議会とのかかわりが深く、学校と地域が連携して子どもために様々な取り組みをおこなっていることがわかりました。各校の運営協議会の取組の中から、加佐登小学校の学校運営協議会でも参考にできるところは取り入れていければと思いました。

また、教育支援課からも参加いただき、今回の運営協議会のご講評と今後の各校での学校運営協議会や中学校区の合同学校運営協議会のあり方や持ち方等について助言をいただきました。



### ○ 実施概要

#### <各校の主な取組内容>

##### 【加佐登小】

- ・ 学校経営方針の承認
- ・ 授業観察を通した進捗状況の確認をしながら学校関係者評価につなげている。
- ・ 1・3年生「昔の遊びくらし」、5年生「米作り体験」に関わっている。
- ・ 青パト3台を使用した防犯パトロールを行っている。

##### 【石薬師小】

- ・ 学習ボランティアの取り組みを強化。中日新聞社にも掲載された。
- ・ まちづくり協議会でのいもほり、ウミガメネットワークを通した学習・交流。
- ・ 地域の4名の方に青パトを運営していただいている。
- ・ 夏休みに教職員との懇談会を行い、先生方との交流の場をもっている。
- ・ 学校運営協議会のための準備会を開き、協議会にむけての話し合いをしている。
- ・ 学校運営協議会は年間6回開催。

##### 【井田川小】

- ・ 学校危機管理マニュアルへの文言追加等の意見具申。
- ・ 学力調査を通して、学校の子どもの弱みや強みについて共通理解。
- ・ あいさつ運動の実施。その際には子どもたちへの積極的な気配りと働きかけ
- ・ 水害の恐ろしさについて学ぶ出前授業。

- ・ 10月に井田川フェスティバルの実施。小学生のダンスチームの発表。
- ・ グラウンドの除草作業。
- ・ 「子どもたちのために何ができるか」を常に念頭に置いて活動。

#### 【白鳥中】

- ・ 小学校と中学校の学校運営協議会はだいぶ違うと感じており、複数の地域が集まって組織が出来ているので、地域の方々と共にという点では難しさがある。
- ・ 年間6回の学校運営協議会では、生徒指導、働き方改革、学力向上、不登校対策などテーマを分けて議論を行っている。
- ・ 子どもたちはSNSも使っており、それに伴う課題も出ている。
- ・ 自転車の安全教育を、意識を高くして取り組んでいく必要がある。
- ・ 学校区内での子どもの事故は、同じ中学校区間でも情報共有をより積極的に行っていく必要があると考えている。

#### <質疑応答 意見交換>

- 自転車通学の際、万が一事故などがあった場合、自転車保険等で対応できるようになっているのか？  
→ 4月に自転車保険の紹介。どうするかは各家庭の判断に委ねている。  
通学中の怪我等に関しては、スポーツ振興センターの保険で対応。全員加入。
- 中学生の自転車のヘルメット着用率はどの程度か？ → 100%。
- 自転車使用時に、後ろから車が近づいてきた際の対応の仕方など、子どもたちの自転車の操作技術の不足を感じる。状況に応じた対応の仕方など、啓発の必要性を感じる。
- 中学校で、自転車指導に関する交通安全教室等は行っているのか？  
→ 新学期当初に実施している。
- 小学校の自転車乗車時のヘルメット着用率はどうか？  
→ 概ねルールを守って着用している。
- 小学校での自転車に関する交通安全教室は何年生で行っているか？  
→ 3・5年生である。
- 自転車に乗り始めた1年生が一番危ないのでは。中学年あたりで実施している小学校が多いようだが、低学年で実施すべきではないか。  
→ 低学年でも、できる範囲で体験させることも検討したいと考えている。  
→ 3年生でも自転車に乗れない子がおり、低学年となると乗れない子やまだ自転車をもっていない子もいるのではないかと推察する。  
3年生頃から子どもたちの行動範囲も広がり、自転車を使用する頻度も多くなると思われるため、3年生頃での実施が適当ではないかと考えている。  
中学校入学前に、自転車を新たに購入し直す家庭が多いため、中学校に進学する前の段階で交通安全教室の実施について検討の余地があると考える。
- 大人側から「こうしなさい」といった押しつけは難しいのでは。子ども自身に考えさせどうしたらいいのかをよく考える取り組みが大切ではないか。子ども達が自分で考え納得したうえで行動できるように導いていくことが大切ではないか。
- 中学校では、子ども達が、自分たちで校則の見直しを主体的に始めている。自分たちでよく考え、ルールを作り上げる中で、決まりを守る意識も育つのではないかと考える。  
また、こういったことができる学校は、一般常識も子ども達に浸透している学校だと捉えることができるのではないかと考える。
- 学校運営協議会の場に見童会の児童に参加してもらって、子ども達の意見を聞く場を設けている。非常に良い取り組みであると考えている。

- 他の小学校では、学校運営協議会の場で子ども達の意見を聞く場は設けられているか？  
→ 委員会の子どもたちが、学校運営協議会の委員さんの前で発表する場を設けている。  
今後は、対話できる場も設けていきたいと考えている。
- 児童会の児童が学校運営協議会に参加する際のタイムテーブルはどのようにされているのか？  
→ 5・6年生の委員会の時間帯に、学校運営協議会を開催し、その時間に児童会の子ども達に参加してもらっている。  
また、事前にテーマを設定して、それに基づいて子ども達の意見をまとめておいてもらうようにしている。

◇教育委員会事務局より

- 今までは各校での取り組みを交流し合う情報共有の場として中学校区の学校運営協議会が行われていたが、今年はそれを一歩超え、各課題に対する熟議ができたと感じている。「自主性を育むには」という切り口で、小中の9年間で、白鳥中校区の各協議会が連携し、取り組みなどを熟議する中で、どうやって子ども達を育てていこうかという視点にもとづいた話し合いであったと感じている。
- この場での話し合いを受けて、各学校に持ち帰って 議論を深めていただければ、この会議の意義がさらに深まることになると思う。
- 自転車はなぜ一列で走らないといけないのかを、子どもが自分で考えるようにさせていくことが大事である。各学校でも話し合っていたきたい。
- 鈴鹿市は非認知能力の育成に努めており、今回の話もこの点つながる内容であったと考える。各校の学校運営協議会でも、自己肯定感や社会性を育てるための議論を進めていていただきたい。